

(仮称)

ゆきのさと自由が丘通信

《2020年4月、小学校開校をめざして》

認定 NPO 法人北海道自由が丘学園・ともに人間教育をすすめる会 / 「自由な小学校」をつくる会
札幌市豊平区月寒東 1-15-5-11 ☎(011)858-1711

「自由な小学校づくり」説明会 in ミナブツ宮の森

先週 5月19日(土) 14:00~16:00 ミナブツ宮の森(宮の森3条1丁目)で「自由な小学校づくり」説明会を、支援者の綿谷千春さんの手配で行い、40名近く集まりました。Face book で呼びかけていただいたのですが、関心の高い人が潜在的にいること、呼びかけ人を信頼してのつながりの広がり、驚きながらも感激しました。参加していただいた中のお一人が「いや～、今日の話鳥肌が立った」とおっしゃっていたのには、こちらこそ感激でした。自由な小学校の設立は夢物語ではないんだということに気づいたブレイクスルー体験だったのだと思います。きっと自由な学校の子どもたちも、仲間と協働で成し遂げる活動・学びを通して、鳥肌の立つようなブレイクスルーを体験していくことになるでしょう。

説明者は呼びかけ人：細田と NPO 代表理事：吉野でしたが、説明は「自由とは放縦ではない」ことから始め、私どもがめざすモデルである「きのくに」のプロジェクトのあり方を中心に自由な小学校のイメージや、学校づくり運動の現状や課題について触れました。短い DVD を見ていただいた後休憩をはさんで、後半は質問や意見交換でした。いろいろな方々からのご発言は多様で書ききれませんが、内容的なことでは、プロジェクトと基礎学習の関係、スタッフの力量、どのような子を受け入れるのか、寮生の割合やスタッフ、給食のこと、地域の人たちとの協力などでした。また、運動の課題・進め方に関しては、具体的な開校場所や廃校の情報、行政へのアプローチの仕方などについていろいろとご意見やアドバイスをいただきました。

吉野からも「きのくに」の寮のスタッフについての補足説明などや、これまでの自由が丘の活動を踏まえた運動の現状や課題について具体的な説明がありました。

参加者のみなさんが自分事として考え、活動への意欲を掻き立てていただいたのは、ありがたいことです。いくつかご感想を紹介いたします。

○ 昔、就職先を探しているときに、きのくに子どもの村を知りました。こんな学校で働きたいと思うようなすてきな学校だったので、北海道にもできてほしいと思いますし、署名などできることは何でも関わらせてもらいたいです。

□□市〇〇小中学校(公立)の非常勤をしているのですが、ここも来年で閉校します。とてもいい場所なのでこの学校は使えないのかな?と思いました。普通の学校の作りですが、心ある用務員さんがかべを木材でデコレーションしていて、あたたかみがあります。

ピアノを学んでいるので、いずれ音楽で関わられたらうれしいです。
6/2 も来れたらと思います。ありがとうございました。

○ まず、このお話を聞く機会をつくって頂きありがとうございます。

私もこのプロジェクトに参加したいです。

思ったことは…

- ・私の娘たちは特認校に通っています。この数年の倍率が 6~8 倍となっています。それだけ需要があります。
- ・そして教員の友人が多くいますが、若い先生たちは各クラスでかなり前向きな取り組みをしています。暗い話が多い印象を受けましたが、頑張っている方がいますので、もっと巻き込んでほしいです。
- ・企業コンサルしてる友人が、社員の肯定感が低い。その根本を変えるには教育であると気づき、学校をつくりたいと思っています。なので企業を巻き込むことも 1 つの策かと思っています。…後略

<今後の集会・動き>

この日ご都合のつかなかった方々に向けて、同じ場所で 6月2日(土) 14:00~16:00 説明会第2回を予定しています。また違う方々とお話が広がることを楽しみにしています。なお、会場の広さを考えて定員 35 名としたところ、もういっぱいになっています。ご要望に応じて、第3回を、6月30日(土) 同時間、同場所に急遽設定しました。詳しくは綿谷さんの face book をご確認ください。

また、6月9日(土) 9:30~11:30 に小樽市張碓町 558 番「かもめ保育園」で、支援者の金澤絵里さんに準備していただいて、説明会を予定しています。申し込みは 2001815@hokkaido-c.ed.jp です。説明は同じ中身ですが、参加メンバーにより話題も違ってきますので、ご関心のある方は今からでもどうぞご参加ください。

自由が丘月寒スクール「卒業・修業のつどい」

3月17日、4名の生徒が卒業しました。それぞれ自由が丘を心落ち着ける居場所として過ごして、これからそれぞれ高校などへ進んでいくことになっています。穏やかな雰囲気の中、大塚代表より一人一人違う卒業証書を受け取り、それぞれが一言ずつコメントを言いました。第二部は生徒たちの歌、スタッフの歌、釧路教育大生からのメッセージVTRなど、第三部は卒業生も交えての交流会でした。



その日並行して行うつもりでいた作戦会議は、皆さん3月は多忙で集まることができませんでした。生徒たちの交流会が行われている隙に、吉野さん、鈴木伸子さん（NPO役員）、甘日岩さん（NPO事務局）、細田でちょっと座談会をしました。自由が丘の子どもたちのこと、札幌の高校などのようす、春からの「ゆきのさと」の活動などについて話しました。幼稚園・子ども園への訪問を続け、札幌近郊の自治体へのアプローチをするためにパンフレットだけでなく趣意書を用意すること、できればある作家の講演会も実現したい、と考えました。資金支援をしてくれそうな企業についても話が及びました。模索・継続検討となり、新学期（4月）～の運動をどうしていこうかと壁にぶち当たっていたところ、綿谷さんや金澤さんから説明会の提案をいただき、前述したような集会を持っているところです。

活動の賛同協力者から

今回は、手嶋和之さんからです。彼は細田と大学教育学部の同期で、何年か社会福祉協議会に勤めたあと中学校の教師をしています。細田の志に賛同して活動に協力してもらっています。愚痴になってしまったと言いつつ、以下の文章を書いてくれました。現場教師の率直なつぶやきです。

公立中学校の教師という仕事

公立中学校教員 手嶋和之

公立中学校の教員は忙しい。朝、8時前には出勤して、朝の打ち合わせ、あいさつ運動、朝の会、そして、50分の授業を午前中4回(空き時間があれば校務分掌の仕事)、昼は教室で給食指導、昼休みは生徒とともに過ごし(生徒観察・監視?)、午後は50分の授業を2回、帰りの会、清掃指導、放課後の学習会、職員打ち合わせ、会議、部活指導(午後6時30分まで)、生徒どうしのトラブルやいじめ事案があれば関係職員の打ち合わせと生徒指導、保護者対応、指導の記録の作成(教育委員会への報告のため)……そして、校務分掌の仕事、成績処理、学級活動の資料作成、…明日の授業準備、小テスト・プリント類の作成…(自分の授業準備は優先順位が低い)そして、学校に夜10時過ぎまでいるか、家に帰ってやろうかと迷う。

公立中学校の教員は世の中の動きに疎くなる。社会について、人間について考える時間がない。公立中学校の教員は、学校をうまく回しているという感覚はある。しかし、本当に今年もこれでいいのか? 何のため? 誰のため? 意味があるかないか? やるべきかどうか? もっと良い別の方法はないか? という根本的な問いはあまり頭がない。ただ、日々を忙しくやり過ごしているという感覚。

公立中学校の教員は深く考える時間がない。来年度から中学校では、道徳が教科になり、生徒に成績をつけなければいけなくなる。国が道徳科の価値項目を22項目作ってくれた。公立中学校教員は国の検定教科書を使い、その22の価値項目をすべて網羅して、1年間で35コマ以上の道徳科の授業を生徒に行い、生徒の成績をつけなければならない。道徳科の授業をやらなければならないのなら、価値項目を22項目つくってくれたことは、ある意味、楽かもしれないが……ここまでお膳立てする必要はあるのか? 22の価値項目は現場で一つひとつ吟味する必要はないのか? とは思ってしまう。

公立中学校ではいじめ対策(実態把握・観察と対応・予防)と学力向上が至上命令だ。いじめ問題は市町村議会で取り上げられ、全国学力テストの結果も重要視される。いじめ対応は道徳の教科化で解決か? 全国学力テスト対策として過去問への取り組みも毎年行う。

公立中学校では、組織的に動くことと、「ほうれんそう」が大切だ。法令順守、説明責任がある。しかし、公立学校の教員は信用されていない。10年ごとに免許更新制度があり、数万円の自己負担で講習を受け、試験に合格して教員免許を維持する。不適格教員の排除が目的らしい。学校は勉強するところだ。学力を向上させなければならない。しかし、学力の中身について教師で話し合うことはない。教科の壁もあるらしい。教育とは何か? と議論するより、冗談を言い合い、楽しい人間関係を教員同士が求める。じっくり考える時間がほしい、新しいことを創造する頭が欲しい。人間に対する情熱、エネルギーが欲しい。

※校務分掌とは、学校全体を運営するための細かく分けられた仕事のこと。学校により異なる。



子どもたちにとって楽しい学校は、スタッフ(教職員)にとっても楽しい学校です。教職員がバーンアウトしている今の学校現場を思うと、何だか虚しくなりますが、これが事実です。だからこそ彼はこの運動に共鳴し協力者となっています。大人も子どもも楽しいことに熱中していれば、疲れを感じないものです。私も先日の説明会が終わった後、「ふ〜っ」どころか、エネルギーモードがプラスでした。そもそも学校は楽しくなければいけませんね。<細田談>